

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年1月10日（金）午後19時00分～午後20時00分
地 区	向井田地区
場 所	向井田集会所
参加人数	12人

テーマ1 「向井田地区の交通手段について」

主 旨（区長）

- 現在の京阪バスにおけるダイヤや経路は、向井田地区にとって自由度が低く、住民にとって馴染みが薄いと感じている。京阪バス撤退に伴い、将来的にどのような考えを持っているのかお聞きしたい。また、新しい交通機関の導入などの予定があれば併せてお聞きしたい。
- 交野市内でタクシーが利用しにくい状況や、福祉サービスの利用について説明をしていただきたい。

市 長

- 路線バスやコミュニティバス（おりひめバス）などが交野市内で運行しているが、基本的には定時定路線である。なお、他地域では、乗り合いのバスやタクシーを電話やネットで予約し、家の最寄りのバス停まで送迎するようなサービスを導入しているところもあるが、自宅から目的地まで直接送迎を行うことはタクシー会社との関係上難しく、そこまで利便性の高いものではないと考えている。もし、交野市で実施しようとすると1台あたり約2,000万円をタクシー会社に支払うこととなる。また、交野市内では通勤通学で路線バスを使用している方が多く、乗り合いのワゴン車では乗客全員が乗れないケースも出てくるため、特定の地域のみ導入することは難しい。また、交野市内ではタクシー会社が一社のみで、おりひめバス導入の際は、ドライバー不足から市内事業者では募集できず、市外の事業者に依頼し、試験的に導入できた経緯がある。
- 向井田エリアのバス路線は、いきいきランドの久御山線側のバス停から青山地区に向かう路線がある。なお、本数についても平日は1日2便、休日は3便と少ないため、納得していただけるものではないと考えている。現在、京都京阪株式会社（京阪バスとは別会社）と契約し、河内磐船駅より出発し、森南、神宮寺、東倉治を往復する無料のワゴン車を、8時～16時台の間、1日に8便運行している。来年度は1日9便に増便し、更に現在京阪バスが通っている向井田、青山、私部を通っているルートを補えるよう延伸する予定である。
- 来年度は、現在京阪バスが使用しているバス停をそのまま使用する。理由については、京阪バスが撤退を申し出たのが今年度の8月だったため、バス停の箇所を変更する手続きがどうしても間に合わなかった。現在の向井田地区におけるバス停の位置は、利用しにくい

という声も聞いているため、令和 8 年度については、警察と協議をした上でルート等を再設定したい。可能であれば、一中の前から第二京阪の側道を通り青山に抜けていくルートを想定している。そうすることによって渋滞を避けつつ、向井田の集会所近くや、いきいきランド近辺にバス停が設置でき、よりスマーズにワゴン車を動かすことができると考えている。10 人乗りのワゴン車で乗車可能人数が十分かという点は、利用状況を見ながら判断し、場合によっては車両変更についても検討していきたい。利用料金は 200 円で、令和 7 年 6 月からは ICOCA 等の電子マネーも利用可能にする予定である。

- 交野市としては、令和 7 年度は、定時定路線のバスを市が責任をもって維持していく。令和 8 年度については、地域の声を聴きながらバス停の検討等を行っていきたい。
- 交野市よりも田舎の地域では、コミュニティバスも維持が出来ず、最終手段としてタクシー会社に依頼し、オンデマンドのように自宅まで迎えに来てくれる制度を利用している地域もある。交野市としては、通勤通学で使われている方も多く、まずはコミュニティバスで運行していきたい。
- 大阪府内でみるとタクシー運転手は増えているが、交野市近辺では増えていない。タクシーは営業エリアがあり、交野市は北河内 7 市のうち守口と門真を除いた 5 市が同じエリアになっているが、収益性の関係もあり、交野市内で常時動いているタクシーは少ない。交野市内のタクシー業者に関しても、車両はあるが運転手が不足しているため運行が難しく、結果的に予約もできないという状況である。
- 福祉輸送サービスについては、市が関与せず民間の事業者が個人に近い形で参入している。こちらは二種免許無しで運行ができるため、ライドシェアに近い形となっている。
- 最終的には、自動運転で自宅から好きなところに移動できるのが一番だが、まだまだ実質的には課題が多いため、それまでは一部の福祉輸送の力を借りながら、市として最寄り駅までは責任をもって公共交通を維持していきたいと考えている。

意見

- 向井田地区では高齢者が多く、現在のバス停や運行時間では不便である。バスに乗れない場合は、杖を突きながら歩いて移動している方が多いのが現実である。住民一人一人の意見を聞き、尊重していただきたい。
- 交野市以外の話だが、自治体が業者に依頼し、マイクロバスでオンデマンドのように市役所や病院、スーパーなど主要な場所を回っている地域もあると聞いた。
→[市長]現在の大坂で、運転手を雇い、ワゴン車を配車していくとなると年間 2000 万円程度かかる。特定の地域でこの金額を払っていくのは事実上ほぼ不可能である。また、ある地域では住民自らが駅と自宅の送迎をしているところもあるが、運転手不足のため上手くいっていないと聞いている。交野市で一部の地域の住民のためだけにワゴン車を配車し、電話をかけたら送迎してくれるよう依頼することは、公平ではないため行政としてはできない。市としては、京阪バスの路線を通勤通学で利用している方も多いため、現在の路線を

維持することを中心と考えていくしかない。

また、バス停の変更については半年から 1 年程度あれば可能である。運転手を一人雇うこととで、1 時間に 1 本バスを走らせることが可能なため、バス停さえ変更てしまえば、向井田地区の中心にはバスが通るようになり、現在より利便性が高くなると考えている。

- なお、今後市営のバスになると利用率が明確になるため、皆様にはできるだけバスを利用していただきたい。オンデマンドについては現在の交野市の人口密度や、予算的なことを考えると導入は難しい。なお、寝屋川市では一部の地域のみワゴン車でオンデマンドのような運行をしているが、他の地域との公平性を考えても、やはり交野市で導入することは難しいことをご理解いただきたい。
- 向井田地区の住民が、何曜日にどの場所に行くことが多い等の集計をとり、そのデータを踏まえた路線を組むことはできないのか。
→[市長]一部の地域のみの意見を取り入れることはできない。なお、福祉では、外出支援制度等もあり、今後も存続するので、足が不自由な方や障がいをお持ちの方にはそちらも活用していただきたい。
- おりひめバスの巡回経路を教えてほしい。
→[市長]交野市駅を出発し、梅が枝、松塚、郡津、幾野を通る路線となっている。なお、この春から JR 河内磐船駅を始発に変更する予定である。また、今後は交野市が運行するコミュニティバスの名前をおりひめバスに統一し、交野市内全体を 5 台で運行する予定。
- 向井田地域の住民がバスを利用する際は、交野市駅まで行かないといけないのか。
→[市長]現在のおりひめバスの路線に向井田地区は通っていない。今回突貫工事で国からの補助金を使い調整しているのは、梅が枝、松塚、郡津、幾野の路線である。
- 向井田地域にバスが走るのは令和 8 年度からという認識で合っているのか。
→[市長]令和 7 年の 3 月 22 日から、寺地域等を通っているルートを変更し、いきいきランドの隣のバス停に止まる予定である。また、地域住民の意見を聞きつつ、令和 8 年度からは、集会所の近辺にバス停を設置したいと考えている。また、向井田地区だけでみると、現在 1 日当たり 2、3 本の運行だが、少なくとも 9 本の運行となるため、向井田地区にとってマイナスにはならない。
- 京阪バス廃止の代替としての予算は、交野市全体で 1.8 億円を想定しているのか。
→[市長]その通りである。この金額から、実際の売上を差し引きする。
- バス路線については、高齢者や障がい等の福祉よりも、通勤通学の方に比重を置いているということで間違いないか。
→[市長]その通りである。現在は京阪バスが撤退した部分に比重を置いている。なお、現在の福祉制度はそのまま存続する。
- 過去に有料バスが停車していた、いきいきランド内の屋根付きの停留所を復活させてほしい。
→[市長]現在は、青山を通った後に久御山線を通るルートとなっているが、よく渋滞が起こるためバスの路線としてはあまり望ましくないと考えている。また、交野高校前の停留所に

についても、乗客は少なくあまり利用されていない。そのため第二京阪側道を通り、いきいきランドで現在使用している向井田側のバス停の箇所をすることによって、バス停からいきいきランドまでの距離が近くなることに加えて向井田会館を通るため、向井田地域にとつてもこのルートが望ましいのでは考えている。

テーマ 2 「大規模災害時の避難所の環境改善の取り組みについて」

主 旨（区長）

- もし大震災が起きたら、体育館の避難所を雑魚寝で利用することになると思うが、いつまでこの不安を抱え続けるのか。30年以内に必ず起こるといわれている大震災に向けて、国際基準であるスフィア基準の達成にどのように進めていけるのか聞かせてほしい。

市 長

- 近年起きた大震災のうち熊本と能登半島の地震については、かなり特殊なケースだった。その地域の真下を通る活断層が一気に揺れて震度7程度の地震が起き、インフラが停止し、住宅も半数は倒壊し、その地域に住む約半数の方が避難を行った。そうした結果、地域の公共施設で収容しきれなくなった。しかし、交野市でのような大震災が起こる確率は3000年に1度と言われている。交野市の地下には交野断層があり、その断層が動けば震度6や7といった大地震が起こることは避けられないと考えている。
- 現在市が対策を行っているのは交野断層が動いたものではなく、数十年に1度起こるであろうと考えられる南海トラフ巨大地震を想定している。なお、南海トラフ地震では交野市では津波の被害は想定されず、家屋の損壊や崩壊が想定される。その時の避難場所として想定される体育館について、中学校はエアコンの設置はほぼ完了しており、小学校に関しては後2年ほどで終了予定である。また、青年の家などの避難所に指定されている場所についても、同じくエアコンを設置するなど環境改善を行っている。また、避難所に付随するトイレに関しても大規模改修を行っている最中である。ただ、学校本体のトイレ改修については、8年から9年と長期になってしまことはご理解いただきたい。理由としては、学校の全てのトイレを一気に工事することは出来ず、階ごとに分けて行う必要があるためである。
- 交野市では、インフラが途絶えた場合に備え、大阪府下の43市町村で1番早くトイレトラックを購入した。さらにトイレトラックとは別に、トイレカーに関しても2台購入し、12月に納車している。なお、7割は国の補助金で、残りを寄付金で集めているため、市としてはお金を負担していない。また、災害時にはシャワーも必要であるため、循環式のシャワーを積んだ車両についても、今年の2月に納車される予定をしており、市としては災害時の環境改善の取り組みに力を入れている。なお、スフィア基準（人道憲章や対応に関する国際的な最低基準）については、起こる災害によって基準が変わるため一概に判断できないが、市としては可能な限り避難所の環境改善には取り組み、結果として子どもたちの学びの環

境改善や、地域皆様が施設利用する環境向上にもつながっていくと考えている。段ボールベッドなども計画的に購入していくが、置き場所がないため、市内全体で防災倉庫の整備も進めている。防災倉庫を、旧土地開発公社の土地に建てるとき、7割の借金を返さなくてよいため、防災公園や防災倉庫に、防災物資を保管していく取り組みも考えている。

意見

- 交野市として、被災時での仮設住宅や市営住宅の利用についてどのように考えているのか。
→[市長]交野市に市営住宅はほとんど残っていない。厳密に言うと、森地区に跡地だけ残っているのと、私部区に数件残っているのみである。公の住宅でいうと府営住宅があるが、梅が枝地区は老朽化の課題もあり、空き家も多いという理由から、順次集約建て替えで戸数を減らしているところで、被災時の避難場所としては想定していない。また、仮設住宅の建設は公共施設などの避難所に避難した後、市の公園などに建設することを想定している。
- 実際の仮設住宅の建設場所はどこを想定しているのか。
→[市長]市で地域防災計画という計画を立てており、倉治グラウンドと、私部グラウンドに想定している。
- 防災マップで確認すると、向井田地区は一中とみらい学園が避難所となっているが、もし近々震災が起きたら避難することになると、みらい学園は開校しておらず、一中は3月で閉校となるが大丈夫なのか。
→[市長]みらい学園については、市への引き渡しは完了しているため、利用できないことはない。一中の解体については、これから設計を決めていく段階のため、4月にすぐ解体が始まつて使えなくなるということはない。
- 避難所として、みらい学園と一中のどちらも使用できることを初めて知ったため、市民に知らせてほしい。
→[市長]改めて周知したい。
- いきいきランドは避難所としては使えないのか。
→[市長]被災した状況にもよるが、基本的には防災拠点として考えており、物流の拠点や、応急救護所となる。また、いきいきランドメインアリーナの天井部分に耐震性がないため、急遽来年度に耐震工事を行うことになった状況である。
- 第二京阪道路の高架下にテントやトイレを設置することは想定しているのか。
→[市長]緊急時には高架下を活用することも考えている。第二京阪の高架下は構造上安全であるため積極的に活用していきたい。

テーマ3 「一中跡地の活用・処分計画について」

主旨（区長）

- 地域の方に全く情報が知らされていない状態であるため詳細をお聞きしたい。

市長

- まず、本来は学校の統廃合を計画している段階で、先に一中の跡地利用を考えなければならなかったが、それができていなかった。また、みらい学園を建設する際に、公共施設適正管理推進事業債を活用している。そのため、みらい学園を建設すると一中と現在の交野みらい小学校を取り壊さざるを得ない。これらが重なり、皆様にはご迷惑をおかけしており、大変申し訳なく思っている。
- 一中は築60年ほどであり、旧長宝寺小学校と比べると古く、こちらを取り壊すこととなった。また、一中を取り壊す費用は5～6億円を想定しているが、防災目的の利用だと国から7割の補助を受けられるため、防災目的の跡地利用となっていることを理解していただきたい。なお、運動場等は防災目的以外にも使用する考えである。立地についても非常に良い場所であり、住民の方々に馴染みのある場所であることから、土地を売却せず市で有効活用したいと考えている。なお、向井田地区の方々の避難所になることも想定され、循環式のトイレなどの建設を予定している。
- 消防団の車庫としての使用が認められているため、私部の消防団が一中跡地を防災物資の備蓄倉庫として使用予定である。また、来年度は星田でも同じような建物を建設する予定。
- 一中は子ども子育ての拠点でもあるため、保育園の移転も検討している。
- 万博のパビリオンに関しては、再建築費用等の問題もあり、現在ルクセンブルク側と協議している段階である。なお、ルクセンブルク側は、子ども子育ての関係で利用してほしいという意向を示しているため、単に防災の拠点としてではなく、子どもたちが利用できる場所として整備していきたいと考えている。
- 交野みらい小学校の跡地利用に関しては、隣接する地域からの意向を受けて、避難所及び公園として利用する予定である。

意見

- 一中の跡地利用に関して、向井田地区には高齢者が歩いて行ける食料品やスーパーが少ないため、そのような用途としても考えてほしい。
→[市長]用途地域という決まりがあり、その土地をどのように利用していいのかが決められている。交野市に関しては、ほとんどが住居専用地域である。新しく建物を建設しようとした場合、基本的には住居関係、防災施設、若しくは公共施設となる。また、商業的な利用に関しては、強い規制がかかっているため、スーパー等の建設は難しい。また、市の施設である一中跡地を、民間事業者へ貸し出すことも容易ではないと考えている。交野市としては外出の支援の充実とともに、できる限り、皆様がお住いの地域から最寄り駅まで

の公共交通は確保していきたいと考えており、駅付近の商業施設を利用していただきた
いと考えている。

- 森の交差点から一中前を通り第二京阪側へ向かう道について、一中の正門前で車が離合
しにくいため拡幅してほしい。
→[市長]一中跡地を防災施設として建設するにあたり、避難経路の整備費用も国の負担
で7割負担してくれるため、その制度を利用して拡幅できないか検討している。
- 第二京阪側道と一中間の交差点の見通しが悪く、信号機を設置することはできないのか。
→[市長]信号については、公安委員会が警察に書類を提出して議論を行ったうえ、一ヶ所
設置するのに 500～1000 万円程度の費用がかかる。なお、費用負担は大阪府となるた
め、府としても容易に許可を出して設置できる状況ではない。交野市内で、近年信号機を
設置できたのが、星田北地域の開発時に設置した一ヶ所のみである。過去に提示された
条件としては、1 時間当たり300～400人程度通行している必要がある等の厳しい条件
で、現在この条件を満たす交野市内の交差点はないと考えている。